

別府の地獄について

別府には現在、主に7つの地獄があります。これらの地獄は地域の火山活動により形成された、ぶくぶくと温泉は湧き、ガスを放出する場所のことです。別府の地獄は、少なくとも江戸時代（1603～1867）から入浴用の源泉として、加えて現在では観光名所として利用されてきました。

地獄という呼び名は仏教における炎熱地獄に由来しているといわれ、別府の地獄は仏教で描かれる地獄の描写に似ていると考えられていました。また昔は地獄という言葉が、仏教における地獄に似た場所の呼び方としてしばしば使われていました。

20世紀初頭、地域の事業家たちが、柵の設置やその他安全対策、周囲の庭造りなどを行い、海地獄を観光名所へと姿を変えました。他の人たちもこれに続き、1937年までに別府には地獄の名所が10ヶ所生まれ、旅行先として鉄輪温泉の人気は高まりました。

なお、別府の地獄は入浴するものではなく観賞用で、地獄ごとにユニークなテーマがあります。例えば、海地獄はその名と通り見事なオーシャンブルーをしています。鬼石坊主地獄は泥の温泉で、表面に湧き出す泥はお坊さんの坊主頭のようにです。血の池地獄は、真っ赤な血の池を想像させます。